



下水道が整えられてきたことで、北九州市の川や海はどのように変わってきたのですか。

北九州市で本格的に下水道をつくり出したのは、昭和38年(1963年)、今から約55年前です。

そのころの川や海の水は、とてもよごれていました。それは、家や工場などで使われてよごれた水を、そのまま川や海に流していたからです。紫川や洞海湾も、魚のすがたを見ることができないほどよごれていました。

しかし、下水道が広がるにつれて、よごれた水を直接川や海に流さなくなったので、川や海の水は、しだいにきれいになっていきました。今では、紫川には、きれいな水にしか住めないホタルやアユ、シロウオなどがもどり、洞海湾にはたくさんの魚や貝がすめるようになりました。

これからも、わたしたちは、もっと住みよいまちづくりをめざして、資源を大切にしながら下水道を整えていこうと考えています。

▼きれいになった紫川



下水道は、わたしたちの暮らしになくてはならないものなのね。



下水道が整えられてきたことで、北九州市の川や海がきれいになったこと以外に、何か変わってきたことはないですか。

下水道が整えられていないところの北九州市では、大雨がふると雨水が川や海に流れることができずに道路にあふれ、家の中に入ってくることもありました。

下水道が整えられてきた現在は、以前のような大規模な浸水はおこりにくくなってきています。しかし、最近では全国各地で短い時間に非常に強い雨が降るようになってきたので、これからも、浸水にそなえたしせつを整える努力をしていきたいと思っています。

▼大雨で道路に水があふれた時の様子



▲昭和28年(1953年、今から65年前) 小倉北区三萩野

▲平成25年7月(2013年) 八幡西区陣山

下水道には、川や海をきれいにする役割だけでなく、水害からまちを守る役割もあるんだね。



★指導上の留意点★

北九州市は、平成6年に紫川をきれいにしたことで、さらに平成9年に海や川を汚す原因のリンを下水から取りのぞき、肥料として再利用することを考えたことで、国から「いきいき下水道賞」(建設大臣賞)をいただきました。

環境化学研究所の平成元年の調査によると、洞海湾には115種類もの魚や貝が確認されています。

★指導上の留意点★

北九州市では、汚水整備はほぼ完成しましたが、浸水対策は計画の70%程度です。

下水道を早い時期に整備した地区では、汚水と雨水と一緒に流す合流式下水道が残っているため、これを汚水と雨水を別々の管で流す分流式下水道に変更したり、河川事業と協力したりして浸水対策に取り組んでいます。